

◆ 地域活動

アーサ養殖指導（中南部）

水産海洋技術センター 米丸浩平 紫波俊介

1. 目的

県内でも需要の高いアーサ（ヒトエグサ）養殖業者を巡回し、指導および情報収集を行う。また、生産者会議を実施し、県内各地の生産者の情報交換および県からの情報提供を行う。

2. 巡回指導

今年度は、北中城で漁場地図の作成および生産者会議の開催、中城で試験養殖を行ったため、2か所を重点的に始動した。

1) 北中城

4月巡回時には、ワタハネモが網に絡みつき、平成28年度生産分の収穫が困難な状態になっていた。諦めて網を放置する漁業者もあり、被害拡大の要因になっている可能性も考えられる。

6月25日、北中城支所総会に出席した。役員改選があり、支所長には村長が就任し、村をあげて経営の立て直しに注力していく体制となった。

10月5日、アーサ漁場を漁協が適切に管理できるよう、紫波普及員と村役場、漁業者とで漁場の地番付けを行った。（詳細は別に報告）

また、中城同様、潮ごとの種付け時期の調査も実施することにした。（後述）

10月13日には、芽出しはまだ確認できず、11月5日、一部の古い網には、数ミリ程度のアーサの種付けが確認できた。

12月6日、10月頭に種付けした網では、早いもので1cm程度に伸びており、10月中旬、11月頭に種付けした網では、まだ芽出

しは確認できなかった。16日には1~2cm程度、29日には2~3cm程度に伸び、全体的に調子は良かったが、漁場により、伸びのばらつきが目立った。また、一部区域のみ、藍藻の繁茂が見られた。

1月5日、アーサ生産部会総会が支所で開催され、県から地籍調査の結果などを報告した。

1月15日、アーサの伸びは順調だが、海が荒れた後に流れ藻が大量に漂着しており、その回収と廃棄に追われていた。また、昨年度被害を出したワタハネモの姿もちらほら見えた。

1/18、生産者会議（後述）

2/14、乾燥したアーサからすっぱい匂いがするという事で確認した。恩納村の事例では、1月程度冷凍してから乾燥しないと同様の匂いがするとのことで（今回は冷凍して数日）指導した。収穫が最盛期を迎えていたが、シオミドロ？が繁茂し、沖の網はかなりひどいとのことだった。

2) 中城

養殖を始めたいという相談を受け、4月28日に現場確認および聞き取りを行った。現場はアナアオサが多いもののアーサも確認でき、漁場も広いため上手くいけば生産拠点となる可能性もあり、試験養殖を行うことになった。5月19日、佐敷中城漁協にて、試験養殖について組合長、中城村役場と調整し、支所の役員改選もあるため、総会後に話を進めることとなった。

8月に中城支所にて、再度アーサ養殖要望を確認し、試験養殖へ向け占用協議、地

元住民説明会を行った。地元住民からは、地先海岸が利用できなくなることを心配する声があったが、網に触らなければ問題ないことや、養殖による漁場改善効果等を説明したところ、非常に好意的に受け入れてもらえた。

旧8月15日にあわせ、10月2日、11月3日の2回、種付け用の網の張り出しを行ったほか、約1週間ごとに補修糸の張り出しも行い、種付き適期も調査した。

10月13日、芽出しはまだ見えず、東風で、流れ藻やゴミが大量に漂着していた。

11月上旬も芽出しは確認できず、16日にはアーサ部会がもめており、部会長がやめるという話も出ているため、現状確認、今後の対応について、支所長、役場担当者と話し合った。一番の原因は養殖作業を共同で行うよう強要されることのようなので、24日に、部会、漁協、支所、役場とで話し合い、来年以降の養殖は個人で行うことを確認した。

12月6日、一部の網ではアーサの芽出しが確認できたものの、ほとんどの網でスジアオノリが繁茂しており、高張りしスジアオノリを枯らすよう指導した。16日には、一部ではスジアオノリの中からアーサが伸びてきているものもあった。27日、中城村役場にて、養殖状況と部会状況を報告。29日には、一部でアナアオサの繁茂が見られた。

1月12日、高張りの効果かスジアオノリはすっかり消え、アーサが青々と伸びていた。

2月14日、収穫に立ち会い、ややスジアオノリも混じっているものの、色の濃いアーサが収穫できた。高張りしすぎた（10日程度）網では、アーサまで枯れてしまうこともわかり、来期以降の勉強となった。

役場から、収穫したアーサを朝市で無料配布したいとの要望があり、2月25日に配

布した。

最終的に、30枚の網から400kg弱の収穫があり、失敗した網を除けば20kg/枚程度と、十分な量の収穫があった。次年度以降、大量に張り出すこととなるので、同様の収穫ができるかはわからないが、試験養殖としては十分に可能性のある漁場であるといえる。

3) 読谷村

2名の漁業者が行っており、12月には中城同様、スジアオノリが繁茂していたが、年明けにはアーサが順調に生育していたものの、一部ではスジアオノリしか生えていない網も見受けられた。

4) 奥武島

11月22日、網は張られていたが、芽出しは確認できなかった。1月12日、本張りしている網が多かったが、伸びは1~2cmと中南部では最も遅い印象だった。

3. 生産者会議

1月18日、北中城村美崎集会所にて開催し、漁協関係23名、北中城村職員3名、県職員9名が参加した。アーサ漁場を視察した後、県から情報提供、各漁協から生育状況の報告を行い、意見交換を行った。

情報提供では、取締船はやて横田船長から「漁業権の適正な管理について」、違反防止のためにわかりやすく説明した。紫波普及員からは、県・村・漁協が協力して行っている「北中城漁場マップ作成の取り組み」について、GoogleEarthで作成したマップを紹介した。また、生産者の協力を得て、各地区普及員が恩納村、北中城、中城、八重山で潮ごとの遊走子（種）の放出量を調べ、その結果を報告したところ、ある程度潮汐の周期に合わせて遊走子の放出量が増えること、恩納村（小潮から中潮）と中

城湾（大潮から中潮）では種を出すタイミングが異なることが示された。

各地区の生育状況は概ね良好であるが、羽地内海では赤土等の汚れがひどく、八重山ではワタハネモとみられる雑藻の漂着、繁茂がひどいようだった。

また最後の意見交換では、生産販売の話題になり、洗浄、選別作業の労力に対し、現状の単価では安すぎるといった意見などがあつたが、恩納村では十分に儲かっているという話を聞き、大いに刺激を受けたよ

うだ。

4. 考察

アーサ養殖に限らず、近年は高水温による藻類養殖の不作が目立っており、漁業者並びに漁協の安定経営の大きな課題となっている。

そのような中で、少しでも収穫量をあげるためには、産地間の連携をより密にし、養殖データや技術の蓄積および共有を行っていく必要がある。

○北中城



4月 ワタハネモの繁茂状況



12月 藍藻の発生(一部区域)



2月 生育状況

○中城



4月 養殖候補地の調査



12月 スジアオノリが芽出し



2月 生育状況



読谷 1月 スジアオノリ



奥武島 1月 生育状況



アーサ生産者会議の様子